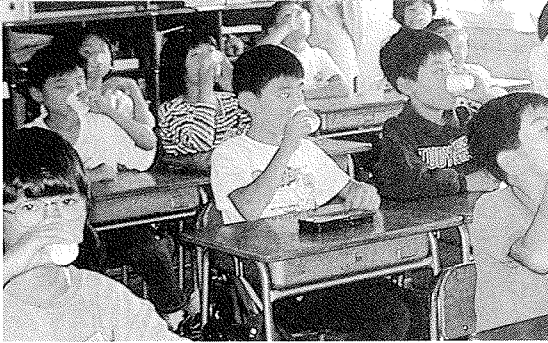


お口爽やかですか

テーマ **フッ化物洗口**



フッ化物洗口が定着した京都の園児・児童にむし歯が少ない

「京都の児童にむし歯が少ない理由」

児童1人の平均むし歯本数0.37本に減少

第1回目の今回は、フッ化物洗口（うがい）についてお話しします。

最近全国でむし歯予防のためにフッ化物洗口を実施する施設が激増し、児童数で約40万人・幼稚園・小学校などの施設数で約40

00に達する勢いです。

そんな中、ある歯科医療関係の情報サイトに「小学生のむし歯予防のため、京都市教委が本年05年度から、歯磨き指導に加えて低濃度のフッ化ナトリウム水溶液を使った洗口（うがい）を取り入れることを決めた。政令都市では全国初の試みという」との話を見つけました。サイトによると、「京都市教委は今後3年間をめぐに、市内の全小学校と養護学校、計190校にこれらを導入。新年度当初予算600万円を計上した」といいます。

サイトでは京都市がフッ化物洗口を推進する理由についても、市教委の話として、「フッ化ナトリウムは海産物や茶に豊富に含まれており、歯質を強化し、表面に汚れが付きにくくなる。水で0.2%の濃度に薄め

たフッ化ナトリウム水溶液で週1回程度うがいすれば効果がある」と述べています。また、その成果についても、「京都市教委は昨年未までに、12の小学校と養護学校で試験導入。既に12年前から継続している市内山科区の百々小では、開始

当時1・87本だった1人当たりの平均むし歯本数が昨年は0.37本に減り、ほかの2校でも減少した。さらに京都市内の小学生がむし歯になっている率は、昨年5月時点で66%。全国平均の71%を下回っている」と強調。最後に「健康な歯の子供を更に増やしたい」と京都市教委の意気込みも伝えています。

旭川でも10年前から実施、今後は学童に普及も

ところで、旭川市内においても10年前から、毎週

1回、保育園や幼稚園の3000人以上を対象にフッ化物洗口を実施しているのはご存知でしょうか。またお隣の東川町では、京都市よりも古く17年前から導入しています。

いまやフッ化物洗口はむし歯予防に欠かせない身近なもので、上川管内では上川町、愛別町、朝日町の園でも導入しています。もちろん学童が上手に出来ないはずがありませんので、旭川でも普及することを望んでいます。

現に旭川市教育委員会では平成18年度から全小学校での実施に向けて検討に入っています。（執筆者・葭内顕史 旭川歯科医師会副会長）

◇ 旭川歯科医師会のご協力で、むし歯予防を取り巻く最新事情（フッ化物洗口法など）から、歯周病予防、インプラントなど歯科治療までの最新動向を分かりやすく連載します。